

③ 第3委員会

「名古屋の歴史をつなぐまちづくり」



それでは、第3委員会の意見を発表します。

第3委員会のテーマは「名古屋の歴史をつなぐまちづくり」です。このテーマについて考えるため、私たちは、7月25日に、秀吉清正記念館の施設見学を行いました。

そこで、私たちは、昔の名古屋城の写真や秀吉、清正がかぶっていたかぶとなどの資料を見て、いろいろな歴史があることを知りました。また、火なわじゅうを持つ体験もしました。火なわじゅうは、重くて、細長くて、持ちにくいけれども、当時の最先たんの武器なんだということを知っておどろきました。

これらの展示物が保管されている収蔵庫も見学しました。しつ度60%、温度20度で管理されていて、展示物への気づかいが素晴らしいと思いました。

しかし、最後にこの施設への来客者数が減っていることがわかり、本当に残念に思いました。

その後、私たちは、施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、「名古屋の歴史をつなぐまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

ぼくは、秀吉ひでよし清正きよまさ記念館で火なわじゅうにふれる体験をしました。

火なわじゅうは、江戸えど時代につくられたのにとてもきれいに保たもたれていて、おどろきました。ぼくは、そのおかげでより火なわじゅうについてくわしくなりました。そして、実物があるだけでわかりやすくなるということに気づきました。

このことを通して、ぼくは今ある大切なものを受けついでいくことが大事だと思いました。受けついでいくことで、昔はこんなものがあつたと未来の人は火なわじゅうのようにくわしく勉強することができます。

名古屋の人たちが物を大切にすることで、「名古屋の歴史をつなぐまち」につながると思います。

○子ども議員

ぼくは、第3委員会ひでよしきよまさで名古屋市秀吉清正記念館へ行きました。記念館では、展示てんじしている火なわじゅうに興味きょうみを持ちました。自分の身を守るためにポルトガル人が日本に初めて持ってきたものだそうです。しかし、織田おだ信長が戦で人を殺すために使ってしまったのです。

そのときに使われていた本物の火なわじゅうは、重くて細長く、持ちにくかったが、そのときは最先ぶたんの武器きだったことを知りました。

このように、記念館では興味きょうみを持つことが多く、ほかの人たちに伝えていきたいです。

○子ども議員

^{わたし}私は、今回、^{ひでよしきよまさ}秀吉清正記念館を訪問し、初めて火なわじゅうを体験しました。

そこで、^{わたし}私のように本物の火なわじゅうを見たことのある人がとても少ないのではないかと思いました。

本物の火なわじゅうをショッピングモールなどに^{てんじ}展示し、体験できる火なわじゅうのレプリカなどを用意するという案はどうでしょうか。

そうすれば、当時の人たちが使っていたずしりと重い火なわじゅうを体感することができ、より名古屋の歴史を^{きょうみ}について興味を持ってもらえるかなと思ったからです。

○子ども議員

ぼくは、7月25日に^{ひでよしきよまさ}秀吉清正記念館に行ってきました。ちなみに聞きますが、この記念館を知っていましたか。残念ながら、知らない人のほうが多いと思います。

このように、歴史に関心を持つ人が少なくなっていると思います。だから、「名古屋の歴史をつなぐまち」にするには、みんなが歴史に関心を持つとよいと思います。

そのためにも、関心を持つ機会をつくるといいと思います。

歴史はもうもどってきません。^{しりょう}資料がなくては見れません。^{しりょう}資料を守る、歴史を守ることは大切だと思いました。

○子ども議員

ぼくは、「名古屋の歴史をつなぐまち」にするために、^{ひでよしきよまさ}秀吉清正記念館に行ってきました。

ぼくも行くまで記念館のことを知りませんでした。でも、行ってみて、とてもおもしろかったので、もっとたくさんの人に来てもらいたいと思います。

そのために、チラシを学校に配ったり、校外学習に行ったり、社会科の自由研究で発表したりして、いろいろな人に知ってもらいたいと思いました。

○子ども議員

ぼくは、「名古屋の歴史をつなぐまち」にするためには、ぼくたちが見学に行った^{ひでよしきよまさ}秀吉清正記念館に行くといいと思います。

記念館には、いろいろな^{ひでよし きよまさ}秀吉や清正に関するパネルや^{てんじ}展示物がたくさんあります。一つ一つの説明がとてもわかりやすいです。

ですが、「名古屋の歴史をつなぐまち」にするためには、外国人に来てもらうことがとても大切だと思います。なので、^{しりょう}資料に外国語をつけて、外国人でもわかるようにしたほうがいいと思います。

○子ども議員

みなさんは、秀吉ひでよしや清正きよまさを知っていますか。

実は、中村公園の中にあるプラザの2階に秀吉清正記念館ひでよしきよまさがあります。この中には、秀吉ひでよしがかぶっていたかぶとのレプリカがあり、織田おだ信長に仕えていた若わかいときの秀吉ひでよしから、豊臣家とよとみがほろびるまでのことがあります。

ほかにも、いろいろな貴重な資料きちょう しりょうがあるのに、年々入場者数へが減ってきています。なので、ぼくは客がいっぱい来てもらえるように、学校の校外学習はぜひここに来てほしいです。

○子ども議員

私は、秀吉清正記念館ひでよしきよまさを訪れ、昔の名古屋城おとずの写真を見ました。

記念館の方に、名古屋城じょうは1612年にできたと教えていただきました。

私が現在の名古屋城じょうを訪れたときに、石がきを見て、とても大きいことにおどろきました。実は、その石がきの石は名古屋城じょうができたときからずっと使われていることを知りました。

このほかにも、名古屋城じょうの歴史にまつわる多くのことを知ることができます。学校の授業じゅぎょうで学んだ上で校外学習などで訪おとずれると、より多くの小学生が歴史にふれることができ、名古屋の歴史をつないでいけるのではないかと思います。

○子ども議員

私は、昔の名古屋城が印象に残っています。名古屋城は、昭和20年に戦争で一度燃えています。そして、昭和34年に木造だったのをコンクリートに変えました。でも、形は同じです。私は、コンクリートに変えて形は同じに建てるなんて、工夫していてすごいと思いました。

そして、このことをもっとたくさんの人に知ってもらえればいいと思いました。そうすると、名古屋城やそのほかの歴史にも興味を持ってもらえると思ったからです。

なので、私は、名古屋城のことを友達に話してみようと思いました。私は、今回体験して、歴史についてもっと知りたくなりました。

○子ども議員

私は、蛇目紋長烏帽子形兜を見ました。これは、加藤清正がかぶっていたかぶとです。縦に長くてとても重そうでした。清正はすごいと思います。

ほかにも、秀吉のかぶっていたかぶとや名古屋城の歴史なども残っていて、たくさん学べました。

私は、清正のかぶっていたかぶとを、レプリカだけど重さを感じたり、実際にかぶってみたりできるようになると、もっと興味を持つ人がふえ、名古屋の歴史をつなぐことができると思います。

○子ども議員

私が秀吉清正記念館で最も印象に残ったものは、馬蘭後立兜ばりんうしろだてかぶとというかぶとです。

このかぶとは、実際に秀吉がかぶったかぶとのレプリカです。すごく大きかったので、秀吉だとわかりやすかったです。このかぶとの歴史をみんなに知ってもらい、広めると、「名古屋の歴史をつなぐまちづくり」につながると思いました。

なので、たくさんの人に秀吉清正記念館に訪れてほしいと思いました。

○子ども議員

この施設の見学で最後に来客数が減っていることを知りました。このことを知って、みなさんはどう思いますか。ぼくは、とても残念だと思います。すばらしい歴史があり、貴重な資料も残っているのに、それを見る人が減っているのです。

この原因だとぼくが考えるのは、今は最新の技術、インターネットがあるからだだと思います。インターネットがあることで、全てそこで調べることができるので、博物館に行く人が減ってしまいます。

そこで、ぼくはその対策を考えました。博物館でのイベントにも最新技術を入れるのです。そしてそれをインターネットで広報することがいいと思います。実際に外へ出かけて体験できるようなイベントを行って、歴史をつなぐとよいと思いました。

わたし
私たちが第3委員会は、このようなことが名古屋を「名古屋の歴史をつなぐまち」にするために必要だと考えました。

これで、第3委員会の発表を終わります。

■うかい教育子ども委員長の答弁^{とうべん}

第3委員会のみなさん、本当におつかれさまでございました。はきはきとして、わかりやすく、気持ちのこもったすばらしい意見発表であったと思います。ありがとうございました。

これまでの2日間ときょうのリハーサル、そんな短い時間の中でよくここまで意見をまとめて、そして議場のみなさんに自分たちの思いが伝わるように発表ができたと思います。

第3委員会では、中村区にある三英けつの一人である秀吉^{ひでよし}、そしてその家来である清正^{きよまさ}、秀吉清正記念館の見学を通じて、名古屋を「名古屋の歴史をつなぐまち」にするためにどうすればよいかということについて考えていただきましたね。

資料館^{しりょう}には、豊臣秀吉^{とよとみひでよし}や加藤清正^{かとうきよまさ}が使用したかぶとのレプリカを初め、資料^{しりょう}がたくさん展示^{てんじ}されていました。そして、豊臣秀吉^{とよとみひでよし}や加藤清正^{かとうきよまさ}がどんな生がい^{はいけい}を送ったのか、その背景となった時代はどんなふうであったのかというようなことを調べ、その様子^{ようす}がうかがい知ることができました。

また、先ほどの発表の中にもたくさん出てきましたが、実際の火^{じっさい}なわじゅうにふれて、重かったですね。みなさん、「おっ」て、こ



んな体が一度しずんでしまったと、そんな体験もしましたね。そういった体験や、学芸員さんからその当時の様子をいろいろと聞いて、みなさんもとてもおどろいていたと思います。

また、パネル写真で昔の名古屋城じょうの勇すがたそうな姿すがたを初めて見て、また、一度焼失してしまったんだと、そんな悲しい、しかしそこから立ち上がってきた名古屋城じょう。市民のみなさんの思い、こめられている、ただのコンクリートにじゃないんだよと、すばらしい、思いが詰まった今の名古屋城じょう。そのこともみなさんが感動していただき、さったことを思い出しました。

一人一人がそれぞれの興味きょうみ関心かんしん、それをひとみをかがやかせて一生けん命に学んでいた。その姿すがたが思い起こされてなりません。

そして、話し合いの中で、秀吉清正記念館ひでよしきよまさに展示てんじしてある価値かちあるこの財産ざいさん、収蔵庫しゅうぞうこにもたくさんありましたね。どうしたらもっとたくさんの人たちに広めることができるか。施設しせつとしてできること、みなさん一人一人ができることについてもいろいろと話し合ってくださいました。

その中で、外国人の人をもっと呼ぶよためにはどうしたらいいんだろう、市民の人にもっと来てもらうにはどうしたらいいんだろう。インターネットを使ったら。いやいや、校外学習なんかに学校で取り入れたらどうだ。そんな考えであるとか、あるいは火なわじゅう、かぶと、そのレプリカをもっと市民のみなさんの間に取り出して体験してもらったらどうだろうか。そんなようなアイデアも、すばらしいアイデアもたくさん出していただきました。

3日間を通して、子ども委員長と子ども副委員長を中心によくまとまって、自分たちのこうしたいという積極的な意見ていあんや提案もさまざま出て、本当にじゅう実した3日間であったと思います。そのこ

とにとても関心をし、私^{わたし}たちもこうあらねばと自分自身に思いをいたしたり、また、たのもしくも思いました。

さて、みなさんは温故知新^{おんこちしん}という言葉を知っていますか。温故知新^{おんこちしん}、聞いたことある。古きをたずねて新しきを知るというふうにも読みますね。昔のことを調べたり学んだりして、そこから新しい知識^{ちしき}、見方、考え方を得ることです。まさにみなさんはこの温故知新^{おんこちしん}を実感したのだと思います。歴史を学ぶ意味がそこにあります。

これからもいろいろなことに興味関心^{きょうみ}を持って、そして、今回のように名古屋を「名古屋の歴史をつなぐまち」にする、そのアイデアを考え、魅力^{みりょく}あふれるまち名古屋をつくっていただきたいと思えます。名古屋の未来は、今ここにいるみなさんにかかっているんです。期待しています。がんばってください。

今回、第3委員会のみなさんからいただいたご意見を、私^{わたし}たち教育子ども委員会でもしっかりと反映^{はんえい}していきたいと思っています。

最後に、服部副委員長^{はっとり}、浅井副委員長^{あさい}、そして指導主事の阿部先生^{しどう}、記念館の職員^{あべ}さんなどのご協力^{しよくいん}があって、この3日間を有意義^{ゆういぎ}に過ごすことができたと思っています。心から感謝^{かんしゃ}申し上げます。

さあ、みなさん、ここからがスタートです。がんばってください。ありがとうございました。

